

1. 長期経営計画『Progress2030』の概要

1 2030年の企業像

「グローバルに変化する社会と向き合い、社内外の知を融合することで、人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値を提供する企業グループ」

「培った信頼と磨き上げた技術により、情熱をもって未来を切り拓く、一流の挑戦者集団」

2 基本戦略

「独自技術の進化と深化、そして拡充による新分野への進出」

1) 情報通信(ディスプレイ・半導体・無機コロイド・光機能性・センサー材料)

ディスプレイ・半導体・無機コロイド材料については、市場の技術革新に即した製品を提供する。さらに、現有技術を活かしたセンサー材料、光制御技術の確立による光機能性材料を生み出す。

2) ライフサイエンス(農薬・動物用医薬品、医薬品、生体材料)

農薬・医薬品のパイプラインを充実するとともに、新たな動物用医薬品を開発する。また、生物評価と材料設計の技術蓄積をもとに、先進医療に貢献する生体材料を創出する。

3) 環境エネルギー(電池・環境発電・熱制御材料)

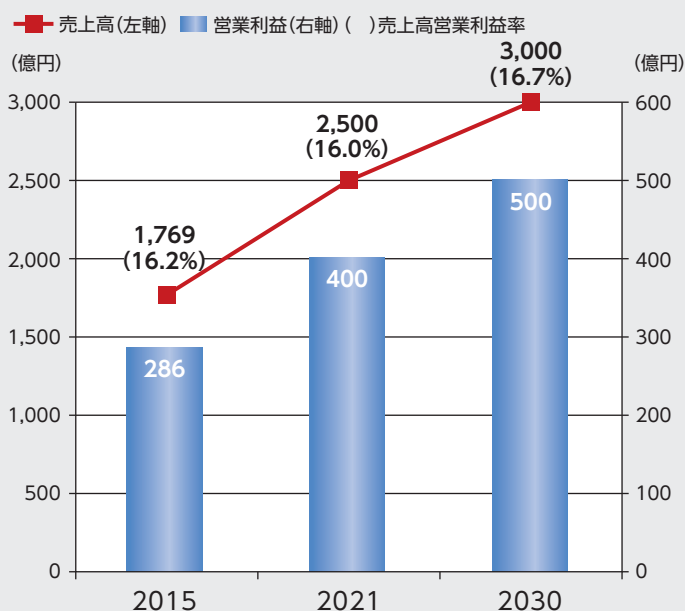
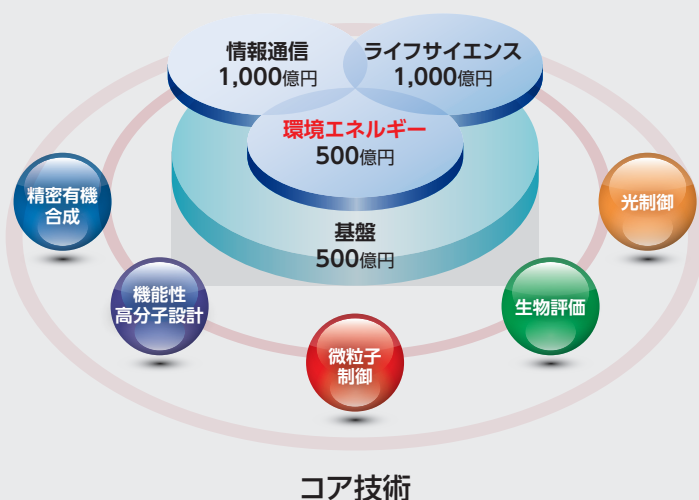
デバイス評価技術を構築し、電池材料およびエネルギーの有効利用に資する材料を供給する。

4) 基盤(基礎化学品、ファインケミカル、関係会社)

封止材用等特殊エポキシテピック®関連の研究開発を推進し、新たな高機能化合物を上市する。

3 事業領域・事業規模

売上高(2030年度)



2. 中期経営計画『Vista2021』の概要

—2016年度を初年度とする6カ年計画—

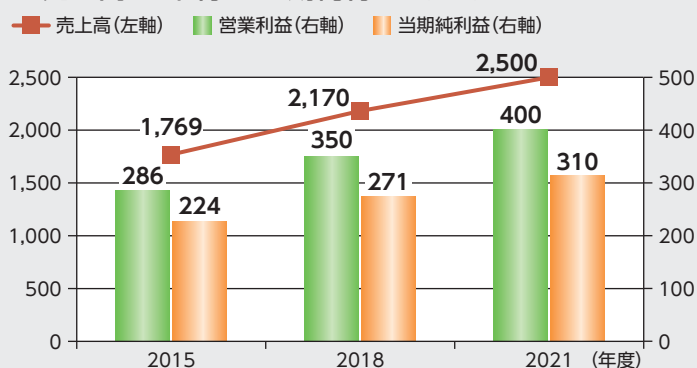
前半3カ年(2016–2018)をStageⅠ、後半3カ年(2019–2021)をStageⅡとする。

1 2021年のあるべき姿

「情報通信およびライフサイエンス事業が成長を牽引し、化学品と関係会社が安定的な収益を確保している」
「環境エネルギー事業の礎を築き、常に前進する将来性と存在感のある化学メーカーとしての地位を確立している」

2 数値目標

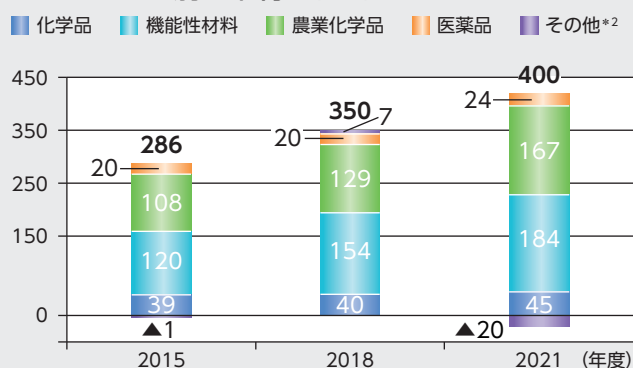
1. 売上高・営業利益・当期純利益*1(億円)



*1 親会社株主に帰属する当期純利益

ナフサ価格(円/kL): 2015年度 42,800円 2016年度 35,400円 2017年度以降 51,100円 為替レート(円/US\$): 2015年度 上期122円 下期118円 2016年度以降 115円

2. セグメント別営業利益(億円)

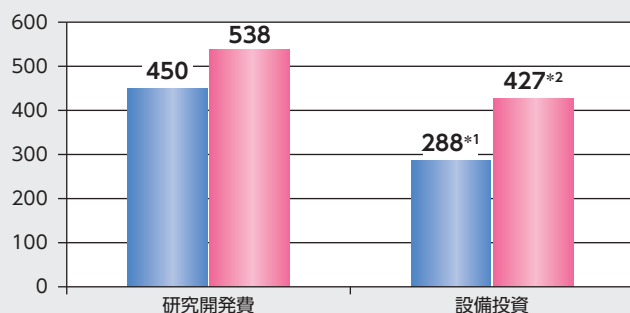


*2 その他: 卸売、その他、調整

3 研究開発費・設備投資

研究開発費・設備投資(億円)

■ 2013–2015年度合計 ■ 2016–2018年度合計



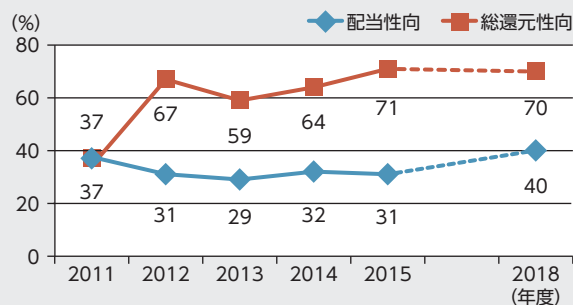
*1 検収ベース *2 稼働ベース

4 経営指標(2018年度目標)

売上高営業利益率	15%以上
ROE	14%以上
売上高研究開発費比率	8%以上

5 株主還元

配当性向	2016年度以降段階的に引き上げ、2018年度40%
総還元性向	70%の維持



「Progress2030」・「Vista2021」の詳細は
http://www.nissanchem.co.jp/news_release/news/n2016_05_12f.pdf
に掲載しています。

3-1. 『Vista2021 StageI』の概要

1 基本戦略

- 1) 現有製品の利益の最大化 成長分野向け製品のシェアアップ、海外における事業展開の推進、コストダウン
- 2) マーケティング力の向上 顧客との密着度を高めることによる市場ニーズの把握、先端材料情報の入手
- 3) 研究開発力の強化 既存技術の磨き上げと新技術の確立、これらによる新製品開発の早期化

2 成長の源泉

売上高増加額 (2018年度 vs 2015年度)		10億円未満	10億円以上30億円未満	30億円以上
化学品		アドブルー® 高純度アンモニア	テピック®	
機能性材料	ディスプレイ		VA	光IPS
	半導体	3次元実装材料(TMAT)、新規ソグラフィ材料		ARC®(半導体用反射防止コーティング材) 半導体多層材料
	無機コロイド		シェール掘削材料 (オイル&ガス分野)	
	新材料	有機EL関連材料 イメージセンサー向け材料 調光フィルム材料 ハイパーテック®		
農業化学品		新規殺虫剤(自社) 新規導入品	ラウンドアップ® アルテア®	フルララネル 海外
医薬品		リパロ®原薬(海外) ファインテック® 新剤導入・パイプライン充実		

*売上高増加額は新中計策定時点での予想
ARC®はBrewer Science, Inc.の登録商標です。
アドブルー®はドイツ自動車工業会の登録商標です。

3 StageII以降に向けた取り組み

1) 情報通信

- ①耐熱レンズ、調光フィルム、光配線材料の開発 ②次世代ディスプレイ・半導体材料の創出

2) ライフサイエンス

- ①殺虫剤NC-515、新規殺菌剤および水稻用除草剤の開発
- ②血小板減少症治療薬NIP-022の共同開発、抗真菌薬の共同研究推進
- ③細胞培養材料のグローバルスタンダード化

3) 環境エネルギー

- ①2次電池および燃料電池用材料の開発 ②環境発電材料の創出

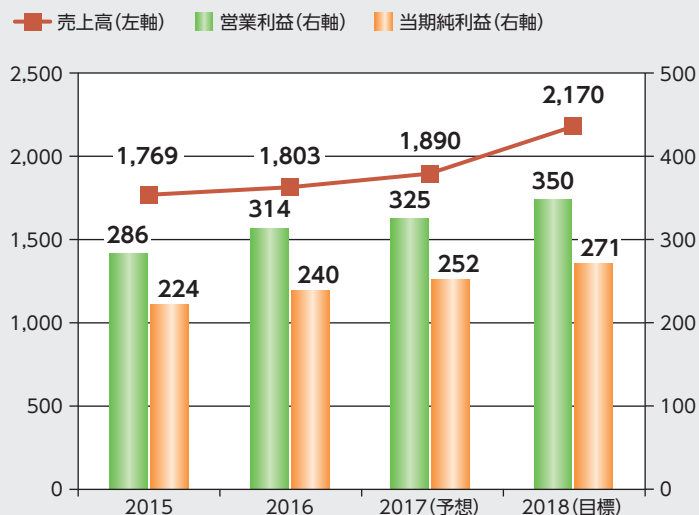
4) 研究開発

- ①生体材料分野におけるシーズ獲得 ②オープンイノベーションによる先端技術の導入
- ③コア技術の強化および融合による、新規事業分野の開拓

3-2. 『Vista2021 StageI』の進捗

1 2016年度実績、2017年度予想

1. 売上高・営業利益・当期純利益(億円)



2. 経営指標

	2016年度実績	2017年度予想
売上高営業利益率	17.4%	17.2%
ROE	15.1%	15.0%
売上高研究開発費比率	8.9%	9.1%

3. 株主還元

	2016年度実績	2017年度予想
配当性向	33.1%	35.8%
総還元性向	70.4%	70%維持

2 基本戦略の進捗

1) 現有製品の利益の最大化

- ①フルララネル(動物用医薬品ブラベクト®の有効成分)の拡販
80カ国以上で販売しているイヌ用チュアブルタブレット(経口投与剤)に加えて、昨年、欧米でネコ用スポットオン(経皮吸収剤)を上市。今後、欧米でイヌ用スポットオンを上市予定。*ブラベクト®はIntervet International B.V.の登録商標です。
- ②ラウンドアップ®マックスロードALIIの発売
一般家庭用のラウンドアップ®マックスロードALシリーズの速効タイプを昨年6月に市場投入。販売好調。
- ③液晶表示用材料サンエバー®の伸長
スマートフォンなど中小型向けの既存顧客でのシェアアップと新規採用の獲得。テレビ向けの実需化達成。



▲ブラベクト®スポットオン

2) マーケティング力の向上

- ①Nissan Chemical America サンタクララ事務所開設(2016年4月)
「新たな技術・材料の獲得」、「新規事業の立ち上げおよび新製品創出の鍵となる目利き力のある人材の育成」
- ②Nissan Chemical Do Brasil 設立(2016年6月)
「世界最大の農薬市場でのニーズ把握と販売力強化、技術サービス向上」

3) 研究開発力の強化

- ①生物科学研究所整備計画完了(2017年3月)
農薬、医薬品および医療材料の有用性と安全性にかかる評価などを担うライフサイエンスの研究拠点として、新製品創製研究を加速。
- ②「生体材料創発連携」
九州大学との組織対応型連携において、再生医療材料、経皮DDS材料の研究をスタート。



▲九州大学実験室